

科目情報

科目名	演習	クラス	20
担当教員	浅田 義久	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土2	単位区分	必
講義室	7101	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義は、修士論文を作成するための指導であり、修士論文のレベルに達せられるような、専門的な研究ができるようにする。
授業概要（教育目的）
学習目標で記したように、本講義は修士論文のレベルに達する分析手法を身につけます。 そのため、都市問題論、計量経済学以外にも GIS や機械学習などを授業外でも学習していきます。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス	どのように授業を進めるか、どのような自習が必要かを学びます。
第 2 回	修士論文の項目を検討する (1)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の概要と項目を検討する。特に目的、簡単なモデルと実証分析への道筋を考える。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 3 回	修士論文の項目を検討する (2)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の概要と項目を検討する。特に簡単なモデルと先行研究の選択を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 4 回	修士論文の項目を検討する (3)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の概要と項目を検討する。モデルの拡充と先行研究の survey を報告する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 5 回	修士論文の項目を検討する (4)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証モデルの基本を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 6 回	修士論文の項目を検討する (5)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証に必要なデータを検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 7 回	修士論文の中間報告 I (1)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の実証分析を検討する。簡単なデータ概要をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 8 回	修士論文の中間報告 I (2)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の実証分析を検討する。簡単なデータ分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 9 回	修士論文の中間報告 I (3)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の実証分析を検討する。実証モデルを作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 10 回	修士論文の中間報告 I (4)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 修士論文の実証分析を検討する。前回は示唆された内容に実証モデルを拡

		張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第11回	修士論文の中間報告Ⅰ (5)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 修士論文の実証分析を検討する。2回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第12回	修士論文の中間報告Ⅰ (6)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 修士論文の実証分析を検討する。簡単な実証分析を行う。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第13回	修士論文の中間報告Ⅰ (7)	修士論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 修士論文の実証分析を検討する。目的から実証分析までの整合性を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第14回	前期の総括(1)	前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第15回	前期の総括(2)	前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第16回	修士論文の中間報告Ⅱ (1)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する(1)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第17回	修士論文の中間報告Ⅱ (2)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する(2)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第18回	修士論文の中間報告Ⅱ (3)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 前期で報告した実証分析を深めて(1)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第19回	修士論文の中間報告Ⅱ (4)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 前期で報告した実証分析を深めて(2)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第20回	修士論文の中間報告Ⅱ (5)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間

		前期で報告した実証分析を深めてる（3）。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第21回	修士論文の中間報告Ⅱ (6)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 実証モデルと実証分析が整合的かを検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第22回	修士論文の中間報告Ⅱ (7)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 修士論文全体の構成の妥当性を考える（1） 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第23回	修士論文の中間報告Ⅱ (8)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 修士論文全体の構成の妥当性を考える（2） 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第24回	修士論文の最終報告 (1)	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第25回	修士論文の最終報告 (2)	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の目的から先行研究までを修正し、実証モデルとデータを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第26回	修士論文の最終報告 (3)	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の実証モデルとデータを修正し、実証分析を精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第27回	修士論文の最終報告 (4)	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の実証分析を修正し、実証分析の結果のまとめを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第28回	修士論文の最終報告 (5)	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の実証分析の結果のまとめを修正し、全体の構成を精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第29回	まとめ（1）	修士論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 修士論文の最終報告を作成する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第30回	まとめ（2）	修士論文の最終報告書を行い。 【事前学習】2時間 学会等の投稿論文を作成する。

		【事後学習】2時間 各自の報告に対してフィードバックする。
--	--	----------------------------------

授業形式
演習形式，毎回学生の報告の評価も行いフィードバックする。 なお，授業は③部分対面型とする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
	50		50		100%
評価の特記事項					
様々な自習の到達度も評価に加味します。					

テキスト
講義中に公表する。
参考文献
講義中に公表する。
オフィスパワー
オフィスパワーは適時変更します。事前に下記の WEB を参考にアポイントを取ること。 https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
毎回の積み重ねが重要で，事前に十分な準備を行い，他の報告者へのフィードバックも評価対象になります。
授業用 URL
https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	01
担当教員	安藤 至大	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	金 4	単位区分	必
講義室	7101	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
この演習では、修士論文を作成するために必要な研究活動を行います。 対応 DP 及び CP : 5、6、7、8
授業概要（教育目的）
修士論文では、個別のテーマを持ち、新規性がある論文を完成させることが求められます。 対応 DP 及び CP : 5、6、7、8

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文について一年間の活動内容を確認する。 【事前学習】2 時間 これまでに学んだ労働経済論の内容を復習しておく。 【事後学習】2 時間 修士論文とは何か、また論文執筆の方法について整理しておく。
第 2 回	研究課題の設定	修士論文の研究課題としてどのようなものがあるのかを知る。 【事前学習】2 時間 過去の修士論文について、扱われているテーマを確認する。 【事後学習】2 時間 ゼミで紹介した修士論文の参考になる論文なども含めて、研究テーマについて検討する。
第 3 回	研究手法の整理	理論研究と実証研究、また政策提言など、論文のスタイルについて学ぶ。 【事前学習】2 時間 これまでに大学院で学んだ経済学の分析手法について理解を確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った内容を整理する。
第 4 回	理論研究の方法	理論モデルを用いて経済現象を記述・分析する手法についての理解を深める。 【事前学習】2 時間 これまでに大学院で学んだ内容の中で、理論分析に該当する部分を復習する。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った内容を整理する。
第 5 回	実証研究の方法	データを用いて理論的予想を検証する方法についての理解を深める。 【事前学習】2 時間 これまでに大学で学んだ内容の中で、実証分析に該当する部分を復習する。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った内容を整理する。
第 6 回	データ分析の手法：分析ツールの使い方	データ分析のツールとして、STATA と R の使い方について理解する。 【事前学習】2 時間 R と RStudio を個人のコンピュータにインストールしておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った内容を整理する。実際に分析ツールの使い方を確認する。
第 7 回	データ分析の手法：最小二乗法	STATA または R を用いて、実際のデータ分析を体験する。 【事前学習】2 時間 分析ツールの使い方を確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱ったデータ以外のサンプルデータを用いて、データ分析の手法を確認する。
第 8 回	データ分析の実践	STATA または R を用いて、実際のデータ分析を体験する。 【事前学習】2 時間 分析ツールの使い方を確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱ったデータ以外のサンプルデータを用いて、データ分析の手法を確認する。
第 9 回	データ分析の実践	STATA または R を用いて、実際のデータ分析を体験する。 【事前学習】2 時間 分析ツールの使い方を確認しておく。

		【事後学習】2 時間 ゼミで扱ったデータ以外のサンプルデータを用いて、データ分析の手法を確認する。
第 10 回	研究課題の決定	研究課題の案を各自最低二つずつ提示し、他の学生のテーマも参考にして、課題について検討を続ける。 【事前学習】2 時間 研究課題の案を準備する。 【事後学習】2 時間 検討した研究課題案について、現時点での考え方をまとめておく。
第 11 回	研究課題の発表と共有	先週に検討した研究課題案の中から実際に取り組む課題を決定し、共有する。 【事前学習】2 時間 研究テーマを選択し、一人 15 分程度で説明できるように準備しておく。 【事後学習】2 時間 決定した研究課題について整理しておく。
第 12 回	先行研究の収集方法について	先行研究の収集方法について理解する。Google Scholar の使い方を学ぶ。図書館の活用法についても確認する。 【事前学習】2 時間 先週に決定した研究課題について、これまでどのような議論がなされてきたかをインターネットで調べられる範囲で調査しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った先行研究の調査方法に基づいて、既存文献を把握する。
第 13 回	先行研究の収集	各自が研究テーマとその先行研究について調査し、共有する。 【事前学習】2 時間 自分の研究テーマに関連する論文や書籍を調査し、まとめておく。 【事後学習】2 時間 他の学生の調査方法や調べてきた論文等を参考にして、自分の参考文献リストを更新する。
第 14 回	先行研究の収集	各自が研究テーマとその先行研究について調査し、共有する。 【事前学習】2 時間 自分の研究テーマに関連する論文や書籍を調査し、まとめておく。 【事後学習】2 時間 他の学生の調査方法や調べてきた論文等を参考にして、自分の参考文献リストを更新する。
第 15 回	前期のまとめ	前期に扱った内容を確認する。後期の進め方について議論する。 【事前学習】2 時間 これまでの学習内容を整理しておく。 【事後学習】2 時間 前期のゼミ活動で得た知識を他人に説明できるようになることを目標として、復習する。
第 16 回	後期のイントロダクション	修士論文の作成について、後期の取り組みを確認する。 【事前学習】2 時間 前期に学んだ分析手法を確認する。また前期に決定した研究課題について、復習しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで扱った内容を復習する。
第 17 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を

		確認する。
第 18 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 19 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 20 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 21 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 22 回	個別の研究活動	自分の研究課題について、考察を深める。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 23 回	論文の執筆	自分の研究課題について、実際に論文を作成する。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 24 回	論文の執筆	自分の研究課題について、実際に論文を作成する。 【事前学習】2 時間 修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。 【事後学習】2 時間 ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。
第 25 回	中間発表	これまでの作業状態について、共有する。 【事前学習】2 時間

		<p>修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。</p>
第 26 回	論文の執筆	<p>自分の研究課題について、実際に論文を作成する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。</p>
第 27 回	論文の執筆	<p>自分の研究課題について、実際に論文を作成する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>修士論文のテーマに関して、必要な作業を行う。教員に相談する事項があれば確認しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。</p>
第 28 回	報告会	<p>修士論文について演習内で報告する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>報告資料を作成する。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。</p>
第 29 回	報告会	<p>修士論文について演習内で報告する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>報告資料を作成する。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>ゼミで指摘された事項を確認し、反映させる。また次週までに必要な作業を確認する。</p>
第 30 回	一年間のまとめ	<p>一年間の活動内容を振り返る。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>ゼミで行ってきた活動内容を個人で振り返っておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>修士論文の内容を大学院の後輩にも伝えられるように、資料を整理する。</p>

授業形式

原則として対面式で行う。特別な事情がある場合にはオンラインでの参加を許可する。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	50%	50%	100%
評価の特記事項					
自分自身の修士論文作成だけでなく、他の学生に対する支援や積極的な関与を評価の対象とする。					

テキスト
なし
参考文献
ゼミにおいて指示する。
オフィスアワー
ゼミの初回に指示する。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
修士論文を完成させるためには、提出が近づいてから急いで作業を行うのではなく、計画的な作業が求められます。定期的に作業内容と進捗状況を確認しましょう。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	02
担当教員	井尻 直彦	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	月5	単位区分	必
講義室	7104	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>大学院ゼミナールでは、ゼミナール受講生が国境を越える経済取引によって発生する諸問題を理解するために必要な基礎的理論を身につけることを目的にします。主なテーマとして国際貿易、海外直接投資および多国籍企業を取り上げ、受講生はこれらの発生要因や経済効果に関して理論的な理解を深め、各国経済の相互依存関係を分析する力を養うことを期待しています。</p> <p>対応 DP 及び CP: 1, 2, 3, 4, 5, 8</p>
授業概要（教育目的）
<p>グローバル化の進展のなかで複雑化する各国の相互依存関係を知り、その上で国際的経済取引の重要性の高まりの意義を理解した上で、国際経済における各自の興味をもったテーマについて問いを設定し、それに対する答えを修士論文としてまとめる。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	初回：修士論文に関する説明	ゼミナール全体の概要の説明 経済の国際化の意義 【準備学習】2 時間 事前に示された課題に取り組む（提出） 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 2 回	第 1 クール：興味のある問いを見つける	修士論文?にまとめる「問い」の発見 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 3 回	第 1 クール：興味のある問いを見つける	修士論文?にまとめる「問い」の発見 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 4 回	第 1 クール：興味のある問いを見つける	修士論文?にまとめる「問い」の発見 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 5 回	第 1 クール：興味のある問いを見つける	修士論文?にまとめる「問い」の発見 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 6 回	第 2 クール：各自の問い関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 7 回	第 2 クール：各自の問い関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 8 回	第 2 クール：各自の問い関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 9 回	第 2 クール：各自の問い関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 10 回	第 2 クール：各自の問い関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す

		【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 11 回	第 2 クール：各自の問いに関する先行研究サーベイ	修士論文?にまとめる「問い」の設定 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 12 回	第 3 クール：先行研究サーベイを文章化	先行研究を文章にしてまとめる 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 13 回	第 3 クール：先行研究サーベイを文章化	先行研究を文章にしてまとめる 【準備学習】2 時間 先行研究を探す 【事後学習】2 時間 各自の研究テーマに関する先行研究サーベイ
第 14 回	中間発表：修士論文の中間プレゼンテーション	修士論文に関するプレゼンテーション 【準備学習】2 時間 プレゼンテーションの準備 【事後学習】2 時間 指摘された箇所を修正
第 15 回	中間発表：修士論文の中間プレゼンテーション	修士論文に関するプレゼンテーション 【準備学習】2 時間 プレゼンテーションの準備 【事後学習】2 時間 指摘された箇所を修正
第 16 回	第 4 クール：分析作業	各自の研究テーマに関する分析 【準備学習】2 時間 必要な分析作業を進める 【事後学習】2 時間 分析作業の継続
第 17 回	第 4 クール：分析作業	各自の研究テーマに関する分析 【準備学習】2 時間 必要な分析作業を進める 【事後学習】2 時間 分析作業の継続
第 18 回	第 4 クール：分析作業	各自の研究テーマに関する分析 【準備学習】2 時間 必要な分析作業を進める 【事後学習】2 時間 分析作業の継続
第 19 回	第 4 クール：分析作業	各自の研究テーマに関する分析 【準備学習】2 時間 必要な分析作業を進める 【事後学習】2 時間 分析作業の継続
第 20 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応

第 21 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応
第 22 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応
第 23 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応
第 24 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応
第 25 回	第 5 クール： 分析結果の報告	各自の分析結果について報告 【準備学習】2 時間 分析結果をまとめる 【事後学習】2 時間 分析結果に関するコメントへの対応
第 26 回	第 6 クール： 修士論文のプレゼンテーション	各自の修士論文について報告 【準備学習】2 時間 プレゼンテーション資料を作成 【事後学習】2 時間 プレゼンテーションに関するコメントへの対応
第 27 回	第 6 クール： 修士論文のプレゼンテーション	各自の修士論文について報告 【準備学習】2 時間 プレゼンテーション資料を作成 【事後学習】2 時間 プレゼンテーションに関するコメントへの対応
第 28 回	第 6 クール： 修士論文のプレゼンテーション	各自の修士論文について報告 【準備学習】2 時間 プレゼンテーション資料を作成 【事後学習】2 時間 プレゼンテーションに関するコメントへの対応
第 29 回	第 6 クール： 修士論文のプレゼンテーション	各自の修士論文について報告 【準備学習】2 時間 プレゼンテーション資料を作成 【事後学習】2 時間 プレゼンテーションに関するコメントへの対応
第 30 回	まとめ	まとめ 【準備学習】2 時間 質問事項の準備 【事後学習】2 時間 ふりかえり

授業形式
①同時双方向型により講義を進めていきます。ゼミナール中にわからないことがあれば、積極的に質問をするようにしてください。で

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0	20%	0	60%	20%	100%
評価の特記事項					
工夫してわかりやすいプレゼンテーションを作成するようにしてください。					

テキスト
特にありません。
参考文献
1.若杉隆平著『国際経済学(第3版)』岩波書店,2730円. 2.ケイブス,フランケル, ジョーンズ著『国際経済学入門①国際貿易編』日本経済新聞社,3780円. 3.浦田秀次郎『国際経済学入門』日経文庫,903円. 4.ヘルプマン著『グローバル貿易の針路をよむ』文真堂, 2730円
オフィスアワー
月曜 2 時限目 必ずメール等で事前に予約をとること
学生へのメッセージ (事前・事後学習の内容など)
ゼミナールは、ただ聞いているだけでは退屈です。ですから、積極的に質問をするようにしてください。ゼミナールに「出席する」というのではなく、「参加する」という意識、姿勢を期待しています。ただし、私語は慎んでください。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	04
担当教員	岡根 秀規	実務経験のある教員 による授業科目	○
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土4	単位区分	必
講義室	7104	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>本授業では、我が国の現行租税法の解釈や適用などに関する個別のテーマについて問題点を抽出し、その分析検討を行った上で具体的解決策を提示することにより、租税法に関する深い知識と分析力を養い、もって租税実務の適正な運用ができるようになることを目標とします。</p>
授業概要（教育目的）
<p>本授業は、租税法に関する修士論文の作成を行うことにより、我が国の現行租税法に精通し、税務専門家として社会で広く活躍できる人材を育成することを目的とします。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の演習授業の目的や運営方針について周知徹底を図るとともに、論文作成の準備を行う。 【事前学習】2 時間 大学院案内を読んでおく。 【事後学習】2 時間 自らのプレゼンの担当日を確認するとともに、論文作成の準備を行う。
第 2 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 3 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 4 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 5 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 6 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 7 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 8 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 9 回	研究テーマに関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究テーマについての説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み疑問点を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 10 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間

		<p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 11 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 12 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 13 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 14 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 15 回	研究資料の収集方法に関するプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究資料の収集方法の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 16 回	修士論文中間発表会への参加	<p>大学院 2 年次の修士論文中間発表会に参加する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み 2 年次の修士論文の要旨を理解しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>中間発表会での指摘事項を自身の今後の研究の参考にする。</p>
第 17 回	修士論文中間発表会への参加	<p>大学院 2 年次の修士論文中間発表会に参加する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み 2 年次の修士論文の要旨を理解しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>中間発表会での指摘事項を自身の今後の研究の参考にする。</p>
第 18 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 19 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p>

		演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 20 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 21 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 22 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 23 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 24 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 25 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 26 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 27 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 28 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 29 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 30 回	まとめ	1 年間の演習での議論を総括するとともに、来年度の論文作成準備を始め

		<p>る。</p> <p>【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み問題点を検討しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
--	--	---

<p>授業形式</p> <p>・授業形態は「①同時双方向型」とする。</p> <p>・質問等の受け付けとフィードバックは、授業内で行う。</p> <p>・質問等は EcoLink または Gmail から受け付ける。</p>
--

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	70%	0%	30%	0%	100%
評価の特記事項					
各回の演習授業で使用する各自が作成した資料は、プレゼンの前日までに他のゼミ生と教員に必ず事前送付すること。					

テキスト
特になし
参考文献
中里実他編、『租税判例百選（第6版）』, 有斐閣, 別冊ジュリスト No.228, 2016年, 2,600円（税抜）.
オフィスアワー
授業時に指示する.
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
修士論文の作成には多大な時間を必要とするので、十分に作成時間を確保した上で、計画的に執筆作業を行うようにして下さい。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	03
担当教員	岡根 秀規	実務経験のある教員 による授業科目	○
学年	2年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土3	単位区分	必
講義室	7104	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>本授業では、我が国の現行租税法の解釈や適用などに関する個別のテーマについて問題点を抽出し、その分析検討を行った上で具体的解決策を提示することにより、租税法に関する深い知識と分析力を養い、もって租税実務の適正な運用ができるようになることを目標とします。</p>
授業概要（教育目的）
<p>本授業は、租税法に関する修士論文の作成を行うことにより、我が国の現行租税法に精通し、税務専門家として社会で広く活躍できる人材を育成することを目的とします。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の演習授業の目的や運営方針について周知徹底を図るとともに、論文作成の準備を行う。 【事前学習】2 時間 自らの修士論文の進捗状況を整理しておく。 【事後学習】2 時間 自らのプレゼンの担当日を確認するとともに、論文完成までの方針を固める。
第 2 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 3 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 4 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 5 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 6 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 7 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 8 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 9 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。 【事後学習】2 時間 演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。
第 10 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。 【事前学習】2 時間

		<p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 11 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 12 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 13 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 14 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 15 回	研究の進捗状況についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の進捗状況の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 16 回	修士論文中間発表会の実施	<p>租税法に関する修士論文の中間発表会で論文要旨の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>自己が作成した修士論文要旨に関する説明事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>中間発表会での指摘事項を踏まえ、今後の論文作成方針を固める。</p>
第 17 回	修士論文中間発表会の実施	<p>租税法に関する修士論文の中間発表会で論文要旨の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>自己が作成した修士論文要旨に関する説明事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>中間発表会での指摘事項を踏まえ、今後の論文作成方針を固める。</p>
第 18 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 19 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 20 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p>

		<p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 21 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 22 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 23 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 24 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 25 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 26 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 27 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 28 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 29 回	研究の成果についてのプレゼン及び討議の実施	<p>租税法に関する修士論文の研究の成果の説明と意見交換を行う。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>事前送付資料を読み質問事項を整理しておく。</p> <p>【事後学習】2 時間</p> <p>演習での討議を復習し今後の研究の参考にする。</p>
第 30 回	まとめ	<p>1 年間の演習での議論を総括するとともに、ゼミ生全員で研究成果を共有する。</p> <p>【事前学習】2 時間</p> <p>ゼミ生全員の修士論文の概要を復習しておく。</p>

		【事後学習】2 時間 演習での討議を復習しゼミ生全員で研究成果を共有する。
--	--	--

授業形式
<ul style="list-style-type: none"> ・授業形態は「①同時双方向型」とする。 ・質問等の受け付けとフィードバックは、授業内で行う。 ・質問等は EcoLink または Gmail から受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	70%	0%	30%	0%	100%

評価の特記事項
各回の演習授業で使用する各自が作成した資料は、プレゼンの前日までに他のゼミ生と教員に必ず事前送付すること。

テキスト
特になし
参考文献
中里実他編、『租税判例百選（第6版）』, 有斐閣, 別冊ジュリスト No.228, 2016年, 2,600円（税抜）.
オフィスアワー
授業時に指示する.
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
修士論文の作成には多大な時間を必要とするので、十分に作成時間を確保した上で、計画的に執筆作業を行うようにして下さい。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	18
担当教員	権 赫旭	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	水5	単位区分	必
講義室	7103	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本演習では、様々な経済学の論文を紹介することで、修士論文を書ける能力を身につけることができる。
授業概要（教育目的）
本演習では、研究者や専門家になるために必要不可欠である学術論文の読み方と書き方についても丁寧に指導する。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	成長会計	深尾京司他「JIP データベース 2018 の構築」『サービス産業の生産性と日本経済』第 1 章、東京大学出版会
第 2 回	生産関数推計	松浦寿幸「パネル・データにおける企業・事業所レベルの生産関数の推計について」『経済統計研究』、44 号、24-50.
第 3 回	生産性上昇の分解分析①	Fukao, K, and H. U. Kwon "Why Did Japan's TFP Growth Slow Down in the Lost Decade? An Empirical Analysis Based on Firm-Level Data of Manufacturing Firms," Japanese Economic Review, 57, 195-228.
第 4 回	生産性上昇の分解分析②	村尾徹士「マイクロデータを用いた生産性成長率分解手法の概観」『フィナンシャル・レビュー』、128 号、41-54.
第 5 回	企業ダイナミクスと生産性①	権赫旭・深尾京司・金榮慤「日本の製造業における参入・退出パターンと生産性」『経済研究』、58 巻、3 号、231-245.
第 6 回	企業ダイナミクスと生産性②	池内健太・伊藤恵子・深尾京司・権赫旭・金榮慤「日本における雇用と生産性ダイナミクス：OECD DynEmp/MultiProd プロジェクトへの貢献と国際比較」RIETI Discussion Paper Series 19-J-06.
第 7 回	企業ダイナミクスと雇用	深尾京司・権赫旭「どのような企業が雇用を生み出しているか：事業所・企業統計調査マイクロデータによる実証分析」『経済研究』63 巻、1号、70-93.
第 8 回	企業ダイナミクスと市場集中	深尾京司・金榮慤・権赫旭・池内健太「アベノミクス下のビジネス・ダイナミズムと生産性上昇」『サービス産業の生産性と日本経済』第 10 章、東京大学出版会
第 9 回	資源の非効率的な配分と生産性①	Kwon, H. U., F. Narita, and M. Narita "Resource Reallocation and Zombie Lending in Japan in the 1990s," Review of Economic Dynamics, 18, 709-732.
第 10 回	資源の非効率的な配分と生産性②	Caballero, R., T. Hoshi, and A. Kashyap "Zombie Lending and Depressed Restructuring in Japan," American Economic Review, 98, 1943-1977.
第 11 回	R&D と生産性	Kwon, H. U. and T. Inui "R&D and Productivity Growth in Japanese Manufacturing Firms," ESRI Discussion Paper No.44.
第 12 回	R&D スピルオーバーと生産性	Bloom, N., M, Schankerman and J. Van Reenen "Identifying Technology Spillovers and Product Market Rivalry," Econometrica, 81, 1347-1393.
第 13 回	イノベーションと生産性	権赫旭・深尾京司・金榮慤「イノベーションと生産性上昇：全国イノベーション調査と企業活動基本調査個票データによる実証分析」Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series 002.
第 14 回	社会間接資本と生産性	林正義「社会資本の生産効果と同時性」『経済分析』、169号、87-107.
第 15 回	無形資産と生産性	宮川努・滝澤美帆・金榮慤「無形資産の経済学：生産性向上への役割を中心として」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ 10-J-8.
第 16 回	マネジメントプラクティスと生産性①	Bloom, N., and J. Van Reenen "Why Do Management Practices Differ across Firms and Countries," Journal of Economic Perspectives, 24, 203-224.
第 17 回	マネジメントプラクティスと生産性②	Lee, K., T. Miyagawa, Y.G. Kim, and K. Edamura "Comparing the Management Practices and Productive Efficiency in Korean and Japanese Firms: An Interview Survey Approach," Seoul Journal of Economics, 29, 1-42.
第 18 回	輸出と生産性①	Wagner, J "Exports and Productivity: A Survey of the Evidence from Firm-level Data," World Economy, 30, 60-82.

第 19 回	輸出と生産性②	伊藤恵子・乾友彦・権赫旭・戸堂康之「中国輸出企業の特徴」『経済分析』、197号、1-27.
第 20 回	海外直接投資と生産性	権赫旭・金榮慤「所有構造と TFP：日本企業データに基づく実証分析」RIETI Discussion Paper Series 10-J-050.
第 21 回	電子商取引と生産性	金榮慤・権赫旭・深尾京司・池内健太「電子商取引と企業パフォーマンス、経済ダイナミズム：『経済センサス-活動調査』調査票情報による実証分析」RIETI Discussion Paper Series 21-J-016.
第 22 回	外資系企業と生産性	Fukao, K., K. Ito, and H. U. Kwon "Do Out-in M&As Bring Higher TFP to Japan? An Empirical Analysis Based on Micro-data," Journal of the Japanese and International Economies, 19, 272-301.
第 23 回	企業間生産性格差	深尾京司・牧野達治・池内健太・権赫旭・金榮慤「生産性と賃金の企業規模間格差」『日本労働研究雑誌』56号、14-29.
第 24 回	労働組合と生産性	森川正之「日本の労働組合と生産性：企業データによる実証分析」RIETI Discussion Paper Series 08-J-030.
第 25 回	企業内教育と生産性	権赫旭・金榮慤・牧野達治「企業の教育訓練の決定要因とその効果に関する実証分析」RIETI Discussion Paper Series 12-J-013.
第 26 回	働き方と生産性	スマートワーク経営研究会「働き方改革と生産性、両立の条件」
第 27 回	コーポレートガバナンスと生産性①	泉敦子・権赫旭「社長交代と企業パフォーマンス：日米比較分析」RIETI Discussion Paper Series 15-J-032.
第 28 回	コーポレートガバナンスと生産性②	森川正之「同族企業の実生産性：日本企業のマイクロデータによる実証分析」RIETI Discussion Paper Series 08-J-029.
第 29 回	中国ショックの影響	Autor, D. "Trade and Labor Markets: Lessons from China's Rise" IZA World of Labor, 2018:431.
第 30 回	ICTと生産性	Fukao, K., K. Ikeuchi, Y.G. Kim and H.U. Kwon "Why was Japan Left Behind in the ICT Revolution?," Telecommunication Policy, 40, 432-449.

授業形式

同時双方向型で、プレゼン・討論形式で行う。質問などのフィードバックは授業中に行う。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	40%	0%	50%	10%	100%
評価の特記事項					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
毎週木曜日の 9 時から 11 時まで、事前にメールをしてアポイントをとること。 メールアドレスは kwontokyo@outlook.com
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
1 週で 1 本の論文を読むペースで進めるので、誠実に参加しないと理解できないので、留意されたい。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	13
担当教員	坂本 雅士	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土4	単位区分	必
講義室	7101	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
租税法に関する総合的な知識を修得し，修士論文構想をまとめ，発表できる力を身につける。
授業概要（教育目的）
論文を執筆するための知識及び手法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら，先行研究の検討を行う。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	論文執筆のための準備①	修士論文のテーマ及び構想発表。
第 2 回	論文執筆のための準備②	修士論文のテーマ及び構想発表。
第 3 回	論文執筆のための準備③	キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
第 4 回	論文執筆のための準備④	問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
第 5 回	論文執筆のための準備⑤	目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
第 6 回	論文執筆に向けて①	ここまでの講義を通して、テーマ変更がある場合にはあらためて構想発表を行う。
第 7 回	論文執筆に向けて②	仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証（反証）可能な命題として示す。
第 8 回	論文執筆に向けて③	主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
第 9 回	論文執筆に向けて④	アプローチ（研究手法）を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
第 10 回	論文執筆に向けて⑤	スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
第 11 回	図書や雑誌記事等の検索①	Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
第 12 回	図書や雑誌記事等の検索②	Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
第 13 回	主要参考文献リストの作成	文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
第 14 回	先行研究の整理①	精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
第 15 回	先行研究の整理②	先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
第 16 回	キーワードのマップ化①	すでに書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
第 17 回	キーワードのマップ化②	すでに書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
第 18 回	論点の列挙①	研究目標（成果）を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
第 19 回	論点の列挙②	研究目標（成果）を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
第 20 回	論文の構成①	列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 21 回	論文の構成②	列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 22 回	論文の構成③	論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 23 回	オリジナリティの確認①	広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった（すなわちオリジナリティのある）考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
第 24 回	オリジナリティの確認②	広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった（すなわちオリジナリテ

		イのある) 考えや主張, 資料などを追加できているかどうか確認する。
第 25 回	脚注のつけ方、引用の再確認	他人の学術成果を引用してよいが, 出所 (出典) を明示し, 引用していることを注記しなければ, 「盗用」「剽窃」となることに注意する。
第 26 回	参考文献作成	参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
第 27 回	論文テーマの再確認	テーマと副題を確定させる。
第 28 回	修士論文の完成に向けて ①	論文の推敲と再構成
第 29 回	修士論文の完成に向けて ②	論文の推敲と再構成
第 30 回	修士論文の完成に向けて ③	論文の推敲と再構成

授業形式
毎回レジュメを作成し、報告及び質疑応答を行う。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	60%	40%	100%
評価の特記事項					
毎回の報告内容を重視する。					

テキスト
なし
参考文献
なし
オフィスアワー
毎週土曜日 12 時～12 時 40 分
学生へのメッセージ (事前・事後学習の内容など)
毎回積極的に参加すること。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	12
担当教員	坂本 雅士	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	2年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土3	単位区分	必
講義室	7101	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
租税法に関する総合的な知識を修得し，修士論文構想をまとめ，発表できる力を身につける。
授業概要（教育目的）
論文を執筆するための知識及び手法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら，先行研究の検討を行う。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	論文執筆のための準備①	修士論文のテーマ及び構想発表。
第 2 回	論文執筆のための準備②	修士論文のテーマ及び構想発表。
第 3 回	論文執筆のための準備③	キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
第 4 回	論文執筆のための準備④	問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
第 5 回	論文執筆のための準備⑤	目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
第 6 回	論文執筆に向けて①	ここまでの講義を通して、テーマ変更がある場合にはあらためて構想発表を行う。
第 7 回	論文執筆に向けて②	仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証（反証）可能な命題として示す。
第 8 回	論文執筆に向けて③	主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
第 9 回	論文執筆に向けて④	アプローチ（研究手法）を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
第 10 回	論文執筆に向けて⑤	スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
第 11 回	図書や雑誌記事等の検索①	Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
第 12 回	図書や雑誌記事等の検索②	Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
第 13 回	主要参考文献リストの作成	文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
第 14 回	先行研究の整理①	精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
第 15 回	先行研究の整理②	先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
第 16 回	キーワードのマップ化①	すでに書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
第 17 回	キーワードのマップ化②	すでに書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
第 18 回	論点の列挙①	研究目標（成果）を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
第 19 回	論点の列挙②	研究目標（成果）を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
第 20 回	論文の構成①	列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 21 回	論文の構成②	列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 22 回	論文の構成③	論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序（論証の順序）を模索する。すなわち論文の構成（章立て）を考える。
第 23 回	オリジナリティの確認①	広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった（すなわちオリジナリティのある）考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
第 24 回	オリジナリティの確認②	広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった（すなわちオリジナリテ

		イのある) 考えや主張, 資料などを追加できているかどうか確認する。
第 25 回	脚注のつけ方、引用の再確認	他人の学術成果を引用してよいが, 出所 (出典) を明示し, 引用していることを注記しなければ, 「盗用」「剽窃」となることに注意する。
第 26 回	参考文献作成	参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
第 27 回	論文テーマの再確認	テーマと副題を確定させる。
第 28 回	修士論文の完成に向けて ①	論文の推敲と再構成
第 29 回	修士論文の完成に向けて ②	論文の推敲と再構成
第 30 回	修士論文の完成に向けて ③	論文の推敲と再構成

授業形式
毎回レジュメを作成し、報告及び質疑応答を行う。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	60%	40%	100%
評価の特記事項					
毎回の報告内容を重視する。					

テキスト
なし
参考文献
なし
オフィスアワー
毎週土曜日 12 時～12 時 40 分
学生へのメッセージ (事前・事後学習の内容など)
毎回積極的に参加すること。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	16
担当教員	齋藤 哲哉	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	演習
曜日・時限	月5	単位区分	必
講義室	7105	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義は、修士論文を作成するための指導であり、修士論文のレベルに達せられるような、専門的な研究ができるようにする。
授業概要（教育目的）
本講義では、受講生自身が設定した経済課題について、経済学的な観点から、調査や研究を通じて解決策を模索し、報告や議論を通じて、それらの能力の研鑽を図ります。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	研究テーマの検討 1	論文指導の概略説明と研究テーマの精査を行う。 【事前学習】研究テーマに必要な資料を準備する； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，再調査する； 2 時間
第 2 回	研究テーマの検討 2	前回の指摘を踏まえ，研究テーマの精査を行う。 【事前学習】研究テーマに必要な資料を準備する； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，再調査する； 2 時間
第 3 回	研究テーマの検討 3	前回の指摘を踏まえ，研究の手順を検討する。 【事前学習】研究テーマに必要な資料を準備する； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，手順を確定する； 2 時間
第 4 回	研究報告 1	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 5 回	研究報告 2	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 6 回	研究報告 3	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 7 回	研究報告 4	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 8 回	研究報告 5	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 9 回	研究報告 6	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 10 回	研究報告 7	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 11 回	研究報告 8	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 12 回	研究報告 9	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 13 回	研究報告 1 0	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 14 回	研究報告 1 1	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 15 回	研究報告 1 2	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 16 回	研究報告 1 3	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い，調査・分析を行う； 2 時間 【事後学習】議論を踏まえて，修正と追加の調査・分析を行う； 2 時間
第 17 回	研究報告 1 4	研究の手順に従い，調査・分析を行い，教員と議論する。

		【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第18回	研究報告15	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第19回	研究報告16	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第20回	研究報告17	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第21回	研究報告18	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第22回	研究報告19	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第23回	研究報告20	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第24回	研究報告21	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第25回	研究報告22	研究の手順に従い、調査・分析を行い、教員と議論する。 【事前学習】研究の手順に従い、調査・分析を行う；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、修正と追加の調査・分析を行う；2時間
第26回	論文の取りまとめ1	これまでの研究成果を踏まえ、論文として取りまとめる。 【事前学習】執筆できる箇所を順次文書化する；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、加筆と修正を行う；2時間
第27回	論文の取りまとめ2	論文の加筆と修正を進め、記述法や内容について議論を行う。 【事前学習】論文の加筆と修正をする；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、加筆と修正を行う；2時間
第28回	論文の取りまとめ3	論文の加筆と修正を進め、記述法や内容について議論を行う。 【事前学習】論文の加筆と修正をする；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、加筆と修正を行う；2時間
第29回	論文の取りまとめ4	論文の加筆と修正を進め、記述法や内容について議論を行う。 【事前学習】論文の加筆と修正をする；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、加筆と修正を行う；2時間
第30回	論文の取りまとめ5	論文の加筆と修正を進め、記述法や内容について議論を行う。 【事前学習】論文の加筆と修正をする；2時間 【事後学習】議論を踏まえて、加筆と修正を行う；2時間

授業形式

・本授業は参加学生による報告と、担当教員との研究に関する議論と指導を行う

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	100%	0%	100%
評価の特記事項					
報告と議論を踏まえ、評価を決定する。					

テキスト
使用しない
参考文献
適宜指示する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	15
担当教員	立川 正三郎	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土4	単位区分	必
講義室	7102	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
以下の項目を習得しながら、税法関連の修士論文を作成する。 ① 税法の読み方、解釈の仕方 ② 判例の読み方 ③ 参考論文の理解、収集方法 ④ 論文の書き方
授業概要（教育目的）
本講義では、あらゆるデータ(判例、参考論文、等)を利用して、収支論文の書き方を習得してもらいます。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 2 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 3 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 4 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 5 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 6 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 7 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 8 回	論文のテーマの決定	自分の考えを基に、判例、参考論文、等を利用して、論文のテーマを決定します。
第 9 回	論文の目次の作成	論文のテーマに沿って、目次を作成します。
第 10 回	論文の目次の作成	論文のテーマに沿って、目次を作成します。
第 11 回	論文の目次の作成	論文のテーマに沿って、目次を作成します。
第 12 回	論文の目次の作成	論文のテーマに沿って、目次を作成します。
第 13 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 14 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 15 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 16 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 17 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 18 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 19 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 20 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 21 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 22 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 23 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 24 回	判例を中心に論文の作成	目次を基に判例を中心に論文を記述する。
第 25 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。
第 26 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。
第 27 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。
第 28 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。
第 29 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。
第 30 回	テーマの税制について論文の作成	テーマの税制について論文を記述する。

授業形式

- ・ 授業形態は「②オンデマンド型」とする。

- ・ 質問等のフィードバックは、講義内に行う。
- ・ 質問等は、Ecolink 又は Gmail から受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	50%	50%	100%
評価の特記事項					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	14
担当教員	立川 正三郎	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	2年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土3	単位区分	必
講義室	7102	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>以下の項目を習得しながら、税法関連の修士論文を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 税法の読み方、解釈の仕方 ② 判例の読み方 ③ 参考論文の理解、収集方法 ④ 論文の書き方
授業概要（教育目的）
<p>本講義では、あらゆるデータ(判例、参考論文、等)を利用して、収支論文の書き方を習得してもらいます。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 2 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 3 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 4 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 5 回	論文のテーマの決定	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 6 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 7 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 8 回	論文の小括の作成	判例の小括を中心に論文を記述する。
第 9 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 10 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 11 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 12 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 13 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 14 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 15 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 16 回	論文の問題点と検討の作成	論文の問題点と検討を中心に論文を記述する。
第 17 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 18 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 19 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 20 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 21 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 22 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 23 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 24 回	論文の全体調整、参考論文名の記載、あとがきの作成、等	論文の全体調整を行いつつ、参考論文名の記載、あとがきの作成、等を行う。
第 25 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。

第 26 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。
第 27 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。
第 28 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。
第 29 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。
第 30 回	校正	論文の全体を読み直して校正を行う。

授業形式
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業形態は「②オンデマンド型」とする。 ・ 質問等のフィードバックは、講義内に行う。 ・ 質問等は、Ecolink 又は Gmail からも受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	50%	50%	100%
評価の特記事項					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	06
担当教員	橘 光伸	実務経験のある教員 による授業科目	○
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土4	単位区分	必
講義室	7103	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>租税法に関する修士論文作成を前提として、1年次では次の能力の修得等を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文作成上の基礎的事項を理解し修得することができる。 2. 論文作成に必要な論理的思考能力と文章作成能力の向上を図ることができる。 3. 研究のテーマを確定し論文の具体的な構想を練り上げることができる。
授業概要（教育目的）
<p>2年間で租税法に関する修士論文を完成させることを目標として、論文作成上の基礎的事項を習得させるとともに、ゼミ形式で裁判例の研究・発表等を通じて、論文作成に必要な論理的思考能力と文章作成能力の向上を図ります。1年次では、各参加者の研究テーマ及び論文の構想を議論・検討することにより、論文執筆を開始するための準備作業を完了させます。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス 税法の修士論文作成についての基本事項	演習の進め方と税法の修士論文作成についての基本事項について説明する。
第 2 回	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究テーマの内容について検討を加える。
第 3 回	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究テーマの内容について検討を加える。
第 4 回	判例研究の基本事項	裁判例の研究及びまとめ方についての一般的な説明を行う。
第 5 回	租税原則に関する判例研究①	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。】
第 6 回	租税原則に関する判例研究②	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。】
第 7 回	租税原則に関する判例研究③	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。】
第 8 回	研究テーマの再検討	これまでの議論を踏まえ、各自の研究テーマについて発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究テーマの内容について検討を加える。
第 9 回	研究テーマの再検討	これまでの議論を踏まえ、各自の研究テーマについて発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究テーマの内容について検討を加える。
第 10 回	租税法と私法の関係等に関する判例研究①	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。
第 11 回	租税法と私法の関係等に関する判例研究②	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。
第 12 回	租税法と私法の関係等に関する判例研究③	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。

		る。
第 13 回	研究に関する論点整理	各自の研究の論点について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の論点を整理し発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 14 回	研究に関する論点整理	各自の研究の論点について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の論点を整理し発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 15 回	研究に関する論点整理	各自の研究の論点について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の論点を整理し発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 16 回	中間発表会	修士論文中間発表会を聴講する
第 17 回	中間発表会	修士論文中間発表会を聴講する
第 18 回	夏期休暇中の研究の成果・進捗状況の報告	夏期休暇中の研究の成果・進捗状況について報告し、意見交換を行う。
第 19 回	修士論文の作成についての留意事項	資料により修士論文の作成を進めるに当たっての留意事項について説明する。 【事前学習】2 時間 配付資料を読んでおく。 【事後学習】2 時間 授業の内容を理解し、論文作成に活かす。
第 20 回	租税回避と否認に係る判例研究①	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジュメを作成する。
第 21 回	租税回避と否認に係る判例研究②	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジュメを作成する。
第 22 回	論文の構想の検討	各自の研究の概要（構想）について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の概要（大まかな構想）をまとめて発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 23 回	論文の構想の検討	各自の研究の概要（構想）について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の概要（大まかな構想）をまとめて発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 24 回	論文の構想の検討	各自の研究の概要（構想）について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の概要（大まかな構想）をまとめて発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 25 回	租税回避と否認に係る判例研究③	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジュメを作成す

		る。
第 26 回	租税回避と否認に係る判例研究④	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。
第 27 回	租税回避と否認に係る判例研究⑤	裁判例について担当者が概要を説明し、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 裁判例を読んで自分の考えをまとめる。担当者は発表用レジюмеを作成する。
第 28 回	論文の構想の再検討	各自の研究の概要（構想）について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の概要（構想）をまとめて発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 29 回	論文の構想の再検討	各自の研究の概要（構想）について発表を行い、意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の概要（構想）をまとめて発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 30 回	論文の構想のまとめ	これまでの議論を踏まえ、各自の研究の概要（構想）について取りまとめを行う。

授業形式

授業形態は原則として①同時双方向型（Zoom によるオンライン授業）とする。

質問等はメール等により随時受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
随時作成を求める報告用の概要ペーパー・レジユメの内容及び授業への参加・討議状況により総合的に評価します。					

テキスト
特になし
参考文献
中里実ほか編「租税判例百選 第6版」, 有斐閣, 2016年 その他授業で必要に応じて紹介します。
オフィスアワー
事前にメール等でアポをとった上で対応します。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
参加者によって経験や進度も異なると思いますが、修士論文の完成という共通の目標に向かって、相互に意見を出し合うことで皆の向上が図られるよう、積極的な参加を期待しています。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	05
担当教員	橘 光伸	実務経験のある教員 による授業科目	○
学年	2年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土3	単位区分	必
講義室	7103	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>租税法に関する修士論文の完成に向けて、2年次では次のことの達成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文テーマについての研究を進め、修士論文の具体的な構想・内容を確定させることができる。 2. 各自の研究の集大成として修士論文を完成することができる。
授業概要（教育目的）
<p>租税法に関する修士論文を完成させることを目標とする。2年次では、これまでに養った論理的思考能力と文章作成能力を基に、原則として個人別に参加者の研究の進捗状況に応じた指導を行い、修士論文を完成させます。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス スケジュール及び修士論文 作成についての留意事項の 確認	2 年次における演習の進め方と修士論文完成に向けてのスケジュール・留意 事項について説明する。
第 2 回	研究概要の発表	各自の研究概要について発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 3 回	研究概要の発表	各自の研究概要について発表し意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に研究の内容について検討を加える。
第 4 回	論文作成指導	個別指導方式により, 各自の作業進捗状況に応じた指導を行う。 【事前学習】2 時間 それまでに研究した内容をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導内容を基に研究の内容について検討を加える。
第 5 回	論文作成指導	同上
第 6 回	論文作成指導	同上
第 7 回	論文作成指導	同上
第 8 回	論文作成指導	同上
第 9 回	論文作成指導	同上
第 10 回	論文作成指導	同上
第 11 回	論文作成指導	同上
第 12 回	論文作成指導	同上
第 13 回	論文作成指導	同上
第 14 回	論文作成指導	同上
第 15 回	論文要旨 (中間発表用) の取りまとめ 中間発表会に向けての打 合せ	各自の論文要旨について発表を行い, 意見交換を行う。 【事前学習】2 時間 研究の内容を整理し発表用の資料を作成する。 【事後学習】2 時間 演習での議論を基に論文要旨について検討を加える。
第 16 回	中間発表会	修士論文中間発表会に参加する。
第 17 回	中間発表会	修士論文中間発表会に参加する。
第 18 回	中間発表会での指摘事項 の整理と今後の進め方の確 認	中間発表会での指摘事項について意見交換を行い, 今後の作業の進め方 について確認を行う。
第 19 回	論文作成指導	個別指導方式により, 作成中の論文原稿に基づき指導を行う。 【事前学習】2 時間以上 論文原稿の書いた部分をまとめて提出する。 【事後学習】2 時間 授業でのフィードバックを基に論文原稿を修正し, 10 月中に論文の初稿を完 成させる。
第 20 回	論文作成指導	同上
第 21 回	論文作成指導	同上
第 22 回	論文作成指導	同上
第 23 回	論文作成指導	個別指導方式により, 論文の初稿に基づく指導を行う。

		【事前学習】2 時間以上 指摘内容を踏まえた論文原稿（全体版）をまとめて提出する。 【事後学習】2 時間 授業でのフィードバックを基に論文原稿を修正する。
第 24 回	論文作成指導	同上
第 25 回	論文作成指導	同上
第 26 回	論文作成指導	同上
第 27 回	論文作成指導	同上
第 28 回	論文作成指導	同上
第 29 回	論文作成指導	これまでの指導に基づき修士論文を完成させる。
第 30 回	全体のまとめ	各自の論文作成についての振り返りと最終試験（口述）に向けての打合せを行う。

授業形式

授業形態は原則として①同時双方向型（グーグル・ミートによるオンライン授業及び個別指導）とする。

質問等はメール等により随時受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
随時作成を求める論文の概要ペーパーや論文原稿等の内容並びに授業への参加及び研究の取組状況により総合的に評価します。					

テキスト
特になし
参考文献
細川健著「租税法修士論文の書き方」,白桃書房, 2020 年 その他授業で必要に応じて紹介します。
オフィスアワー
事前にメール等でアポをとった上で対応します。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
参加者によって仕事との兼ね合いや研究の進捗状況も異なると思いますが、修士論文の完成という共通の目標に向かって、相互に積極的に意見を出し合うことで研究の質を高め、より良い修士論文が作成できるよう、前向きな取り組みを期待しています。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	11
担当教員	伏見 俊行, 脇本 利紀	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土4	単位区分	必
講義室	7105	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
租税法に関する修士論文を完成する。
授業概要（教育目的）
租税法に関する修士論文を完成するために必要な集合指導及び個別指導を行う。

		う。
第 26 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 27 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 28 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 29 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 30 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。

授業形式
研究内容に関する学生の発表、教員による指導、意見交換等を実施する。オンラインでの交信を基本とする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	0%	100%	100%
評価の特記事項					
修士論文の完成及びその内容が評価対象になる。					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
随時受け付ける。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	10
担当教員	伏見 俊行	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	2年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	土3	単位区分	必
講義室	7105	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
租税法に関する修士論文を完成する。
授業概要（教育目的）
租税法に関する修士論文を完成するために必要な集合指導及び個別指導を行う。

		う。
第 26 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 27 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 28 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 29 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。
第 30 回	修士論文指導	租税法に関する修士論文を完成するための集合指導又は個別指導を行う。

授業形式
研究内容に関する学生の発表、教員による指導、意見交換等を実施する。オンラインでの交信を基本とする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	0%	100%	100%
評価の特記事項					
修士論文の完成及びその内容が評価対象になる。					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
随時受け付ける。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	演習	クラス	
担当教員	三井 秀俊	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	火6	単位区分	
講義室	7072	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義では、以下の能力を身に付けることを目指します。 (1) 日本の証券市場の歴史を理解し、説明できるようになる。 (2) 株式発行市場・株式流通市場を理解し、説明できるようになる。 (3) 公社債発行市場・公社債流通市場を理解し、説明できるようになる。 (4) デリバティブ市場を理解し、説明できるようになる。 (5) 証券化商品・投資信託を理解し、説明できるようになる。 (6) 研究報告を行なえるようになる。
授業概要（教育目的）
日本の証券市場に関して、幅広い範囲を対象として学習していきます。日本の証券市場の歴史、株式市場、債券市場、デリバティブ市場、証券化商品市場、投資信託等の基本的な事項を理解できる授業とします。日本の証券市場の仕組み、機能や現状を理解できるようになることを目標とします。証券・金融の分野においては、今後、フィンテック、ブロックチェーン、人工知能等の新しい技術が証券市場についても大きな変革をもたらすと考えられます。しかしながら、今後、どのように証券市場が変革していくにしても、証券市場全体の歴史や現状を理解しておくことは重要であると思われれます。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	Introduction	証券市場論では何を学ぶのかを説明する。 【事前学習】2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 2 回	証券市場と国民経済 (1)	証券とは・企業の資金調達・財政について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.2-7 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 3 回	証券市場と国民経済 (2)	家計の金融資産・外国人の投資行動について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.8-13 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 4 回	日本の証券市場の歴史 (1)	戦前～石油ショック (1970 年代) までについて輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.14-23 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 5 回	日本の証券市場の歴史 (2)	バブル経済前後～リーマンショックまでについて輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.24-33 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 6 回	株式発行市場 (1)	株式会社と株式・新株発行について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.34-41 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 7 回	株式発行市場 (2)	株式の引受・未公開株市場について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.42-45 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 8 回	株式流通市場 (1)	株式流通市場と投資指標について輪読する。

		<p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの pp.46-59 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第9回	株式流通市場 (2)	<p>信用取引制度・証券取引システムについて輪読する。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの pp.60-65 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第10回	日本の株価指数	<p>日経平均, TOPIX, JPX 日経 400 の解説を行なう。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第11回	株式投資	<p>株式投資・運用に関して解説を行なう</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの pp.236-237 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第12回	学生による研究報告 (1)	<p>学生による研究報告を行なう。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 研究報告内容をよく復習しておくこと。</p>
第13回	公社債発行市場 (1)	<p>公社債の種類・発行・発行状況について輪読する。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの pp.66-73 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第14回	公社債発行市場 (2)	<p>格付け・新株予約権付社債・仕組み債について輪読する。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの pp.74-79 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第15回	前期のまとめ	<p>前期のまとめを行なう。</p> <p>【事前学習】2時間 EcoLink からテキストの資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】2時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>

第 16 回	公社債流通市場 (1)	<p>公社債の売買主体・店頭市場取引について輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.80-85 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 17 回	公社債流通市場 (2)	<p>公社債の流通利回り・現先取引について輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.94-99 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 18 回	デリバティブ市場 (1)	<p>先物・オプション等のデリバティブの概要について説明する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 19 回	デリバティブ市場 (2)	<p>債券先物・株価指数先物・金融先物取引について輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.122-129 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 20 回	デリバティブ市場 (3)	<p>オプション取引について輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.130-131 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 21 回	デリバティブ市場 (4)	<p>債券オプション・株価指数オプション取引について輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.132-135 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 22 回	デリバティブ市場 (5)	<p>有価証券オプション等、様々なオプションについて輪読する。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink からテキストの pp.136-141 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。</p>
第 23 回	学生による研究報告 (2)	<p>学生による研究報告を行なう。</p> <p>【事前学習】 2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 2 時間</p>

		研究報告内容をよく復習しておくこと。
第 24 回	学生による研究報告 (3)	学生による研究報告を行なう。 【事前学習】2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 研究報告内容をよく復習しておくこと。
第 25 回	証券化商品	証券化商品の仕組み・内容等について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.142-155 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 26 回	投資信託	投資信託の歴史・形態・商品内容等について輪読する。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの pp.102-121 をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。
第 27 回	学生による研究報告 (4)	学生による研究報告を行なう。 【事前学習】2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 研究報告内容をよく復習しておくこと。
第 28 回	学生による研究報告 (5)	学生による研究報告を行なう。 【事前学習】2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 研究報告内容をよく復習しておくこと。
第 29 回	学生による研究報告 (6)	学生による研究報告を行なう。 【事前学習】2 時間 EcoLink から資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 研究報告内容をよく復習しておくこと。
第 30 回	後期のまとめ	後期のまとめを行なう。 【事前学習】2 時間 EcoLink からテキストの資料をダウンロードし、予めよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習し、授業中に出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。

授業形式

基本的にテキストに従って輪読を行いません。必要に応じて随時講義内容の補足となるプリントを配付します。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	20%	0%	60%	20%	100%
評価の特記事項					
課題レポートは必ず提出すること。その他は、講義内容の要約・まとめなど書いて頂きます。					

テキスト
日本証券経済研究所『詳説現代日本の証券市場』日本証券経済研究所,1944 円。
参考文献
授業時に適宜指示します。
オフィスアワー
火曜日 19:40 – 21:10. 事前にメールでアポイントをとること。 メールアドレスは、授業時に指示します。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
予習・復習を必ずすること。授業中のノートの取り方など工夫してください。授業中に配布する資料などは、きちんと整理してください。
授業用 URL
参考 URL 1
https://www.jpx.co.jp/
参考 URL 2
https://www.jsri.or.jp/

科目情報

科目名	演習	クラス	07
担当教員	吉田 博之	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	前期	ナンバリング	
開講時期	前期	科目区分	演習
曜日・時限	月2	単位区分	必
講義室	7101	単位数	8
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>この演習では、以下の能力を身につけることを目標としている。</p> <p>(1) 海外の学術専門誌に掲載されているマクロ経済学に関する文献（主に、英語文献）を正確に読解できるようになる。</p> <p>(2) 大学院レベルのマクロ経済学の数学的展開に着目しつつ、自らも理論モデルの構築ができるようになる。</p> <p>(3) マクロ経済学に限らず、多くの分野を学ぶことにより幅広い知識を自律的に探求できるようになる。</p> <p>対応DP及びCP： 2, 3, 4, 5, 6, 7</p>
授業概要（教育目的）
<p>この演習では、経済理論の一分野であるマクロ経済学を学ぶことにより、現実の経済体系や社会構造に関する理解・知見を深めるように努める。各人の興味に沿った学術論文を選択し、その論文を深く理解することを目的とする。また、将来に研究者となることを志望する場合、密度の濃い修士論文を作成することが最重要課題となる。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	『修士論文』に関するガイダンス：修士論文の作成と提出に関する諸注意	【事前学習】2 時間 修士論文に関する一般的議論についてインターネットなどを利用して調べておく 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 2 回	研究領域の決定，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「研究領域について」を作成する 【事後学習】2 時間 今後の計画を再確認する
第 3 回	具体的テーマの決定，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「具体的テーマの候補」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 4 回	研究計画の検討，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「修士論文の研究計画」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 5 回	研究計画の完成，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「修士論文の研究計画」を完成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 6 回	先行研究の収集，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「先行研究一覧」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 7 回	先行研究に関する探求，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「先行研究」を再確認する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 8 回	重要文献に関する内容紹介 (1)，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 自分の興味ある文献を読み，その内容を A4 用紙 3 枚以上に整理する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 9 回	重要文献に関する内容紹介 (2)，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 自分の興味ある文献を読み，その内容を A4 用紙 3 枚以上に整理する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 10 回	重要文献に関する内容紹介 (3)，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 自分の興味ある文献を読み，その内容を A4 用紙 3 枚以上に整理する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 11 回	重要文献に関する内容紹介 (4)，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 自分の興味ある文献を読み，その内容を A4 用紙 3 枚以上に整理する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める
第 12 回	重要文献に関する内容紹介 (5)，および，全員による議論	【事前学習】2 時間 自分の興味ある文献を読み，その内容を A4 用紙 3 枚以上に整理する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し，理解を深める

第 13 回	研究の目的を明確化, および, 全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「研究の目的」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 14 回	I 研究方法の種類に関する検討	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で複数の「研究方法」について書類を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 15 回	前期の振り返り 夏季休暇期間中の修士論文の作成計画を発表する	【事前学習】2 時間 前期の学習内容を振り返り, 今後の計画について検討する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 16 回	ガイダンス これまでの作成進捗の報告と後期の卒業論文作成計画を報告する	前期ゼミの内容, ゼミの形式を振り返り, 後期ゼミの進行などについて議論を実施する。 【事前学習】2 時間 各自が前期ゼミの振り返りを行い, それを A4 用紙 1 枚程度にまとめておくこと。 【事後学習】2 時間 ゼミの内容を復習し, 当回のキーワードと現実社会の接点を熟考・検討しておくこと。
第 17 回	研究方法の設定, および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「研究方法」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 18 回	分析の実施 (1), および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「分析」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 19 回	分析の実施 (2), および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「分析」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 20 回	研究結果の考察 (1), および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「研究結果の考察」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 21 回	研究結果の考察 (2), および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「研究結果の考察」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 22 回	結論の作成, および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上で「卒業論文の結論」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 23 回	進行状況の中間発表	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚程度で「進行状況の中間発表」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める
第 24 回	参考論文の一覧の書き方の確認, および, 参加者全員による議論	【事前学習】2 時間 A4 用紙 1 枚以上に「参考文献」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し, 理解を深める

第 25 回	卒業論文の仮原稿の提出	【事前学習】2 時間 「卒業論文の仮原稿」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 26 回	卒業論文の校正（1）, および、参加者全員による 議論	【事前学習】2 時間 「卒業論文の仮原稿」を校正する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 27 回	卒業論文の校正（2）, および、参加者全員による 議論	【事前学習】2 時間 「卒業論文の仮原稿」を校正する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 28 回	論文要旨の作成, 結論の 再確認, および, 参加者 全員による議論	【事前学習】2 時間 「論文要旨」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 29 回	卒業論文の発表会（1）	【事前学習】2 時間 A4 用紙 5 枚程度で「卒業論文発表会スライド」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める
第 30 回	卒業論文の発表会（2）	【事前学習】2 時間 A4 用紙 5 枚程度で「卒業論文発表会スライド」を作成する 【事後学習】2 時間 本日の内容を復習し、理解を深める

授業形式

- ・原則として、（1）同時双方向型の授業形態を実施するが、社会的情勢などを考慮しつつ、（3）部分対面型の授業形態を実施することも計画している。この点については、受講生の事情を十分考慮し、決定する。
- ・質問等は原則的に講義中に受け付け、そのフィードバックは講義内で行う。学問的な疑問を受講生で共有することは教育上極めて有益であるから、講義中の質問を歓迎する。もちろん、メールなどでの質問も受け付ける。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	30%	0%	60%	10%	100%
評価の特記事項					
授業内で提示した課題はすべて提出すること。					

テキスト
授業時に適宜, 指示する。
参考文献
授業時に適宜, 指示する。
オフィスアワー
原則として, 月曜日 13:00~14:00 とする。有意義な時間とするための準備が必要であるから, 事前にメールでアポをとることが望ましい。 なお, メールアドレスは, 授業時に指示する。
学生へのメッセージ (事前・事後学習の内容など)
・演習は大学院教育の中で最も重要な位置を占める。事前学習に力を注ぎ, 真摯な態度で参加すること。 ・特段の理由なしに無断欠席や 2 回連続の遅刻は厳重に禁止する。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	05
担当教員	浅田 義久	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	土3	単位区分	
講義室	7092	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義は、博士論文を作成するための指導であり、博士論文のレベルに達せられるような、専門的な研究ができるようにする。 特に、博士課程では毎年投稿論文を1本作成し、3年間で博士論文を書き上げることを目的とする。
授業概要（教育目的）
学習目標で記したように、本講義は博士論文のレベルに達する分析手法を身につけます。 そのため、都市問題論、計量経済学以外にもGISや機械学習などを授業外でも学習していきます。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス	どのように授業を進めるか、どのような自習が必要かを学びます。
第 2 回	投稿論文の項目を検討する (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に目的、簡単なモデルと実証分析への道筋を考える。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 3 回	投稿論文の項目を検討する (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に簡単なモデルと先行研究の選択を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 4 回	投稿論文の項目を検討する (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。モデルの拡充と先行研究の survey を報告する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 5 回	投稿論文の項目を検討する (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証モデルの基本を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 6 回	投稿論文の項目を検討する (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証に必要なデータを検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 7 回	投稿論文の中間報告 I (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ概要をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 8 回	投稿論文の中間報告 I (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 9 回	投稿論文の中間報告 I (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。実証モデルを作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 10 回	投稿論文の中間報告 I (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。前回に示唆された内容に実証モデルを拡

		張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第11回	投稿論文の中間報告Ⅰ (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。2回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第12回	投稿論文の中間報告Ⅰ (6)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単な実証分析を行う。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第13回	投稿論文の中間報告Ⅰ (7)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。目的から実証分析までの整合性を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第14回	前期の総括(1)	前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第15回	前期の総括(2)	前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第16回	投稿論文の中間報告Ⅱ (1)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する(1)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第17回	投稿論文の中間報告Ⅱ (2)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する(2)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第18回	投稿論文の中間報告Ⅱ (3)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 前期で報告した実証分析を深めて(1)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第19回	投稿論文の中間報告Ⅱ (4)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 前期で報告した実証分析を深めて(2)。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第20回	投稿論文の中間報告Ⅱ (5)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間

		前期で報告した実証分析を深めてる（3）。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第21回	投稿論文の中間報告Ⅱ (6)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 実証モデルと実証分析が整合的かを検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第22回	投稿論文の中間報告Ⅱ (7)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文全体の構成の妥当性を考える（1） 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第23回	投稿論文の中間報告Ⅱ (8)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文全体の構成の妥当性を考える（2） 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第24回	投稿論文の最終報告 (1)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第25回	投稿論文の最終報告 (2)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを修正し、実証モデルとデータを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第26回	投稿論文の最終報告 (3)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証モデルとデータを修正し、実証分析を精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第27回	投稿論文の最終報告 (4)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を修正し、実証分析の結果のまとめを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第28回	投稿論文の最終報告 (5)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析の結果のまとめを修正し、全体の構成を精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第29回	まとめ（1）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の最終報告を作成する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第30回	まとめ（2）	投稿論文の最終報告書を行い。 【事前学習】2時間 学会等の投稿論文を作成する。

		【事後学習】2時間 各自の報告に対してフィードバックする。
--	--	----------------------------------

授業形式
演習形式、毎回学生の報告の評価も行いフィードバックする。 なお、授業は③部分対面型とする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
様々な自習の到達度も評価に加味します。					

テキスト
講義で紹介する。
参考文献
講義で紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは適時変更します。事前に下記の WEB を参考にアポイントを取ること。 https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
毎回の積み重ねが重要で、事前に十分な準備を行い、他の報告者へのフィードバックも評価対象になります。
授業用 URL
https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	01
担当教員	権 赫旭	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	月7	単位区分	
講義室	7061	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義では、様々な経済理論を経済諸問題に当てはめて、学術的な実証論文を書ける能力を得ることができる。
授業概要（教育目的）
本講義では、既存論文を輪読しながら、研究者になるために必要不可欠な学術論文の読み方と書き方についても丁寧に指導する。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	マイクロデータを用いた生産関数推計①	Blundell and Bond (2000) "GMM Estimation with Persistent Panel: an Application to Production Functions," <i>Econometric Reviews</i> , 19, 321-340. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 次回の輪読予定の論文を読んでおくこと。
第 2 回	マイクロデータを用いた生産関数推計②	Levinsohn and Petrin (2003) "Estimating Production Functions using Inputs to Control for Unobservables," <i>Review of Economic Studies</i> , 70, 317-342. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 3 回	マイクロデータを用いた生産関数推計③	Olley and Pakes (1996) "The Dynamics of Productivity in the Telecommunications Equipment Industry," <i>Econometrica</i> , 64, 1263-97. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 4 回	マイクロデータを用いた生産関数推計④	Akerberg, Caves and Frazer (2015) "Identification Properties of Recent Production Function Estimators," <i>Econometrica</i> , 83, 2411-51. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 5 回	マイクロデータを用いた生産関数推計⑤	Kim, Petrin, and Song (2016) "Estimating Production Functions with Control Functions When Capital Is Measured with Error," <i>Journal of Econometrics</i> , 190, 267-279. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 6 回	マイクロデータを用いた需要関数推計①	Berry, Levinsohn, Pakes (1995) "Automobile Prices in Market Equilibrium," <i>Econometrica</i> , 63, 841-890. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 7 回	マイクロデータを用いた需要関数推計②	Petrin (2002) "Quantifying the Benefits of New Products: The Case of the Minivan," <i>Journal of Political Economy</i> , 110, 705-729. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 8 回	マイクロデータを用いた需要関数推計③	Nevo (2000) "A Practitioner's Guide to Estimation of Random-coefficients Logit Models of Demand," <i>Journal of Economics and Management Strategy</i> , 9, 513-548.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 9 回	マイクロデータを用いた需要関数推計④	Dube, Fox and Su (2012) "Improving the Numerical Performance of Static and Dynamic Aggregate Discrete Random Coefficients Demand Estimation," <i>Econometrica</i> , 80, 2231-67.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 10 回	マイクロデータを用いた需要関数推計⑤	Knittel and Metaxoglou (2014) "Estimation of Random-coefficient Demand Models: Two Empiricists' Perspective," <i>Review of Economics and Statistics</i> , 96, 34-59.輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 11 回	マイクロデータを用いた費用関数推計①	McElroy (1987) "Additive General Error Models for Production, Cost, and Derived Demand or Share Systems," <i>Journal of Political Economy</i> , 95, 737-757.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 12 回	マイクロデータを用いた費用関数推計②	Caves, Christensen and Tretheway (1980) "Flexible Cost Functions for Multiproduct Firms," <i>Review of Economics and Statistics</i> , 62, 477-481 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 13 回	生産性の低下原因	Syverson (2017) "Challenges to Mismeasurement Explanations for the US Productivity Slowdown," <i>Journal of Economic Perspectives</i> , 31, 165-186 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 14 回	マックアップ推計①	Loecker and Warzynski (2012) "Markups and Firm-Level Export Status," <i>American Economic Review</i> , 102, 2437-2471 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 15 回	マックアップ推計②	Loecker, Goldberg, Khandelwal, and Pavcnik (2016) "Prices, Markups, and Trade Reform," <i>Econometrica</i> , 84, 445-510.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 16 回	労働市場の需要独占	Dube, Jacobs, Naidu and Suri (2018) "Monopsony in Online Labor Markets," NBER Working Paper No.24416.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 17 回	マーケットパワーの上昇	Gutierrez and Philippon (2017) "Investment-less Growth: An Empirical Investigation," <i>Brookings Papers on Economic Activity</i> を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 18 回	労働分配率の低下①	Karabarbounis and Neiman (2014) "The Global Decline of the Labor Share," <i>Quarterly Journal of Economics</i> , 129, 61-103 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 19 回	労働分配率の低下②	Grossman, Helpman, Oberfield, and Sampson (2017) "The Productivity Slowdown and The Declining Labor Share: A Neoclassical Exploration," NBER Working Paper を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 20 回	無形資産と投資	Peters and Taylor (2016) "Intangible Capital and the Investment -q Relation," <i>Journal of Financial Economics</i> , 123, 251-272.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 21 回	競争政策と生産性	Buccirosi, Ciari, Duso, Spagnolo, and Vitale (2013) "Competition Policy and Productivity Growth: An Empirical Assessment," <i>Review of Economics and Statistics</i> , 95, 1324-1336 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。

第 22 回	中国ショックと労働市場	<p>Autor, Dorn, and Hanson(2016) "The China Shock: Learning from Labor-Market Adjustment to Large Changes in Trade," Annual Review of Economics, 8, 205-240.を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 23 回	Management Practices の決定要因	<p>Bloom, Brynjolfsson, Foster, Jarmin, Patnaik, Saporta-Eksten, and Van Reenen (2017) "What Drives Differences in Management Practices?," American Economic Review, 109, 1648-83.を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 24 回	Management Practices と生産性	<p>Bender, Bloom, Card, Van Reenen, and Wolter (2018) "Management Practices, Workforce Selection, and Productivity," Journal of Labor Economics, 36, 371-409 を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 25 回	実証組織経済学の進展	<p>Bloom, Sadun and Van Reenen (2009) "Recent Advances in the Empirics of Organizational Economics," Annual Review of Economics, 2, 105-137.を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 26 回	人工知能と生産性	<p>Brynjolfsson, Rock, and Syverson (2017) "Artificial Intelligence and the Mordern Productivity Paradox: A Clash of Expectations and Statistics," NBER Working Paper No.24001. を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 27 回	ロボットと労働	<p>McAfee and Brynjolfsson(2016) "Human Work in the Robotic Future: Policy for the Age of Automation," Foreign Affairs を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。</p>
第 28 回	データによる意思決定	<p>Brynjolfsson and McElheran (2016) "The Rapid Adoption of Data-Driven Decision-Making," American Economic Review, 106, 133-139 を輪読しながら議論する。</p> <p>【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】2 時間</p>

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 29 回	スピルオーバー効果分析	Bloom, Schankerman, and Van Reenen (2013) "Identifying Technology Spillovers and Product Market Rivalry," <i>Econometrica</i> , 81, 1347-1393.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 30 回	競争とイノベーション	Aghion, Bloom, Blundell, Griffith, and Howitt (2005) "Competition and Innovation: An Inverted-U Relationship," <i>Quarterly Journal of Economics</i> , 701-728.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。

授業形式

プレゼン・討論形式で行う。課題に関するフィードバックは授業中に行う。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	20%	0%	70%	10%	100%
評価の特記事項					

テキスト
特になし
参考文献
オフィスアワー
毎週木曜日の 9 時から 11 時まで、事前にメールをしてアポイントをとること。 メールアドレスは kwontokyo@outlook.com
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
1 週で 1 本の論文を読むペースで進めるので、誠実に参加しないと理解できないので、留意されたい。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	02
担当教員	古庄 修	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	土3	単位区分	
講義室	7093	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<p>本講義では、財務会計論の領域について、営利企業のみならず非営利組織までその対象を広げてより高度な専門知識を得ることを目標とします。営利企業および非営利組織に係るディスクロージャー制度の変容に大きな影響を与えている諸要因を考察するために、会計学研究のための方法の修得も重要な目標になります。</p> <p>年間を通じて、学会報告の準備と課程博士論文の完成に向けて、本講義における学びを収斂することを目指します。</p> <p>対応 DP 及び CP : 5, 6, 7, 8</p>
授業概要（教育目的）
<p>私が担当する研究指導は、「財務報告論」の枠組みの中で、いま注目されている ESG（環境・社会・ガバナンス）情報や、SDGs（持続可能な開発目標）に係る企業の取り組みと関連づけた「統合報告」の展開まで視野に入れた研究をすべての学年に共通して行います。</p> <p>博士後期課程においては、積極的に学会報告と学会誌への査読付き論文の掲載を目指すとともに、課程博士論文の完成に向けた指導を丁寧に行って参ります。</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	前期ガイダンスおよび研究指導 (1)	講義の内容, 進め方, 評価方法および履修上の注意点について説明します。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて事前に準備した資料を EcoLink からダウンロードし, よく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 2 回	研究報告および研究指導 (2)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 3 回	研究報告および研究指導 (3)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 4 回	研究報告および研究指導 (4)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 5 回	研究報告および研究指導 (5)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 6 回	研究報告および研究指導 (6)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 7 回	研究報告および研究指導 (7)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 8 回	研究報告および研究指導 (8)	研究課題に即した報告の後, 研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに, 次回授業時の研究報告の準備を行うこと。

		と。
第 9 回	研究報告および研究指導 (9)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 10 回	研究報告および研究指導 (10)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 11 回	研究報告および研究指導 (11)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 12 回	研究報告および研究指導 (12)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 13 回	研究報告および研究指導 (13)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 14 回	研究報告および研究指導 (14)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 15 回	前期の総括および研究指導 (15)	前期に学んだことを振り返るとともに、補足的・追加的な解説を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、夏季休暇中においても論文制作を継続すること。
第 16 回	後期ガイダンスおよび研究指導 (16)	前期の講義内容を改めて振り返るとともに、夏季休暇中の研究の進捗状況について報告してもらいます。 【事前学習】 事前に準備した資料を EcoLink からダウンロードし、よく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 17 回	研究報告および研究指導 (17)	研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間

		<p>講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 18 回	研究報告および研究指導 (18)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 19 回	研究報告および研究指導 (19)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 20 回	研究報告および研究指導 (20)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 21 回	研究報告および研究指導 (21)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 22 回	研究報告および研究指導 (22)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 23 回	研究報告および研究指導 (23)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 24 回	研究報告および研究指導 (24)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>
第 25 回	研究報告および研究指導 (25)	<p>研究課題に即した報告の後、研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに、次回授業時の研究報告の準備を行うこと。</p>

第 26 回	研究報告および研究指導 (26)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 27 回	執研究報告および研究指導 (27)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 28 回	研究報告および研究指導 (28)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 29 回	研究報告および研究指導 (29)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 30 回	後期の総括および研究指導 (30)	後期に学んだことを振り返るとともに，補足的・追加的な解説を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，冬季休暇中においても論文制作を継続すること。

授業形式

授業形態については，事前にスケジュールを設定し，進捗状況を踏まえて Zoom 等も用いながら部分対面型で行います。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%		0%	50%	50%	100%
評価の特記事項					
出席点を加点要素として、学会報告および課程博士論文の完成に向けた執筆論文の出来栄を総合的に評価します。					

テキスト
田村・中條・浅野共著『会計学の手法—実証・分析・実験によるアプローチ〔第2版〕』中央経済社，2021年を事前学習のテキストとします。その他，論文制作に必要な文献は随時紹介します。
参考文献
開講時に指示します。
オフィスアワー
月曜日 12 時 15 分から 12 時 55 分までとします。事前のアポイントを要します。 なお，メールアドレスは初回事業時に指示します。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
言うまでもありませんが，出席点（授業への参画度）にも関係しますので，無断欠席がないようにお願いします。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	03
担当教員	三井 泉	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	水6	単位区分	
講義室	7101	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院博士前期課程までに学んだ知識を基礎として、自らの問題設定の下に博士論文を作成する。 2. 問題設定の行い方と、先行研究、基本文献、関連文献、資料等の収集と整理の仕方を学ぶ。 3. 上記を踏まえて、自分自身の論理的フレームワークを構築する方法を学ぶ。 4. 上記のフレームワークに基づいて、問題を分析し、論理的に結論を導いていく方法を学ぶ。 5. 学内外の研究会・学会などで報告や論文投稿を行い、説得力のある論理と結論を構築し、最終的に博士論文を完成させる。 <p>対応 DP および CP:5,6,7,8</p>
授業概要（教育目的）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士前期課程までに学んだ専門知識の再確認の上で、博士論文の課題を設定してもらう。 2. 博論作成のプロセスを示した上で、その段階的学習へのアドバイスを、適宜個別指導を繰り返していく。不足知識があれば基本文献の読解も行う。 3. 課題設定の仕方、先行研究・関連文献・資料等の検索の仕方、整理の仕方を実践を交えながら習得してもらう。 4. 研究方法論、分析手法、論理構築のやり方を学習してもらいながら、結論へと自ら導いていけるように、個別指導を通じて学習支援する。 5. 論文の完成度に従い、学内外の研究会や学会での報告や国内外の学術誌への投稿を行い、それらが蓄積されて博士論文の完成にいたるよう指導する。 <p>対応 DP および CP:5,6,7,8</p>

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	イントロダクション 博士論文作成のプロセス	博士論文とはどのようなものであり、論文執筆のプロセスについて全体像を説明し、各自で完成念を設定して、計画を立ててもらう。 事後学習 2 時間以上：各自で執筆計画を作る。
第 2 回	研究課題の設定について	博論の研究課題の設定とはどのようなもので、どのように行っていくかということの説明し、今前の研究を踏まえて大略的な課題設定を行う。 事前学習 2 時間以上：博論の課題について検討しておく。 事後学習 2 時間以上：講義に基づいて課題を見直す。
第 3 回	研究の動機・目的・方法	研究課題が決定している場合は、その研究の目的を明らかにし、研究動機、方法などを確認していく。決定していない場合は、さらに課題設定に取り組む。 事前学習 2 時間以上：課題設定ができれば、動機・目的・方法の検討をする。 事後学習 2 時間以上：講義にもとづき、動機・目的・方法を再確認していく。
第 4 回	先行研究・関連文献等の 検索・収集・整理	先行研究・関連文献等の検索・収集・整理の方法について、実践を通じて学び、質疑応答を行う。 事前学習 2 時間以上：研究動機、目的、方法の確認を行う。 事後学習 2 時間以上：先行研究や関連文献について検索・収集・整理を行う。
第 5 回	研究論文の研究：博士論文の性格とは	「博士論文とは何かについて、従来の「学術論文」との違いを踏まえて、構成や論述方法などについて学ぶ。代表論文のいくつかを検討する。 事前学習 2 時間以上：先行研究や関連論文の検索、収集、整理、検討を行う。 事後学習 2 時間以上：自分の研究課題に関連する学術論文を読む。
第 6 回	類似した研究分野の博士論文の検討①	課題が類似している博士論文を検索・収集し、それらの課題設定、研究方法、構成、参考文献などについて検討する。 事前学習 2 時間以上：先行研究論文をよく読んでおく。 事後学習 2 時間以上：読んだ論文を参考に、自分自身の論文の構想を練る。
第 7 回	類似した研究分野の博士論文の検討②	同上
第 8 回	類似した研究分野の博士論文の検討③	同上
第 9 回	博論の研究課題の設定①	研究課題の設定について、類似する博論の検討を踏まえて討議する。 事前学習 2 時間以上：これまでの検討を踏まえて、課題設定を行う。 事後学習 2 時間以上：指導の結果に基づき、研究課題を再検討する。
第 10 回	第博論の研究課題の設定②	同上
第 11 回	国内外の先行研究の検索方法とリスト作成の方法	先行研究の検索方法とリスト作成方法についての検討を行う。 事前学習 2 時間以上：先行研究の検討結果をまとめる。 事後学習 2 時間以上：ディカッションを踏まえて、検討結果を精査する。
第 12 回	研究課題・目的・方法のプロセス確定	今までの検討結果をまとめ、研究課題→目的→方法のプロセスを確定させる。 事前学習 2 時間以上：各自が上記のプロセスをまとめておく。 事後学習 2 時間以上：講義を踏まえて、上記を再検討する。
第 13 回	博論の全体構想（仮アウトライン）の検討	今までの検討を踏まえて、博士論文全体の構想（仮アウトライン）作成する。それに従って、下記進めていくための計画を立てる。 事前学習 2 時間以上：今までのプロセスに沿って、仮アウトラインを作成する。

		事後学習 2 時間以上：講義で学んだことに基づき、仮アウトラインを再検討する。
第 14 回	前期の振り返り：ここまでのプロセスの再確認と再検討	今までの講義のプロセスを振り返り、不十分なところについて再確認し、充足させるための検討を行う。 事前学習 2 時間以上：自分の進捗状況を確認し、問題点を明確化する。 事後学習 2 時間以上：講義に基づき、問題解決を行い先へ進めていく。
第 15 回	ここまでの経過確認と今後の執筆計画立案	前期の講義（論文執筆の基礎学習）を踏まえて、論文構成に従って今後の執筆計画を立案する。より具体的に完成期限を想定し、投稿予定雑誌や発表学会などの検討も行う。 事前学習 2 時間以上：今後の執筆計画と発表計画を策定する。 事後学習 2 時間以上：講義内の話し合いを踏まえ、計画を再検討する。 夏季休暇中：各自で計画に基づいて研究を進め、必要があれば、適宜指導教授に適宜連絡する。休暇中に学会報告等がある場合には、適宜研究会を実施する。
第 16 回	夏季休暇中の成果報告	夏季休暇中の執筆成果を報告し、今後の執筆計画を立てる。 事前学習 2 時間以上：休暇中の成果報告をまとめておく。 事後学習 2 時間以上：後期の執筆計画を立てる。
第 17 回	個別論文指導①	論文の進捗状況に合わせて、執筆指導を行っていく。不足している資料等については追加検討を行う。ある程度執筆が進んだ段階で、発表学会ならびに投稿雑誌などについて検討を行う。 事前学習、事後学習の全ては論文執筆に充てられる。
第 18 回	個別論文指導②	同上
第 19 回	個別論文指導③	同上
第 20 回	個別論文指導④	同上
第 21 回	研究報告会①	学内外の関連研究者による研究会を開催し、相互に意見交換を行う。それを参考にして、今後の執筆を進める。
第 22 回	個別論文指導⑤	20 回に同様。
第 23 回	個別論文指導⑥	同上
第 24 回	個別論文指導⑦	同上
第 25 回	個別論文指導⑧	同上
第 26 回	個別論文指導⑨	同上
第 27 回	研究報告会②	学内外の関連研究者による研究会を開催し、相互に意見交換を行う。それを参考にして、今後の執筆を進める。
第 28 回	個別論文指導⑩	26 回に同様。
第 29 回	個別論文指導⑪	同上
第 30 回	今年度の成果報告と博士論文全体の進捗状況確認	今年度全体の成果（研究報告、論文等）を報告し、博士論文全体の完成状況を確認して、次年度以降の研究計画を検討する。

授業形式

講義形式は③の部分対面型とする。（新型コロナウイルスの感染状況により、①②も取り入れる）

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	%	100%	100%
評価の特記事項					
博士論文は、課程博士の期間内（3年～6年）の間に仕上げることを目的とする。そのためには、全体構成を確認しながら、毎年1～2本の論文を執筆して蓄積する必要がある。それらを全体的に判断して評価する。					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
時間を調整した上で随時行う。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
課程博士の論文作成と申請は、将来的に研究者を目指すものにとって、必ず通らなければならない関門である。また、特定の学問領域のプロフェッショナルとしての証明となるものである。この講義では、受講生が必ず課程博士の期限内に博士論文を完成させて申請できることを目指す。そのためには、各自の自主的な絶えざる研究姿勢が必要である。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	04
担当教員	村田 直樹	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	月6	単位区分	
講義室	7102	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
会計学（とくに管理会計論）に対する学術的な貢献を見出せるように研究を進め、その成果として学術論文を執筆・投稿し、最終的に博士論文を完成させる。
授業概要（教育目的）
学術論文を執筆するための研究課題の設定、先行研究の探索と選定、データ収集方法の選択、データの分析、学術的貢献の明確化について助言する。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス	どのように授業を進めるか、どのような自習が必要かを学びます。
第 2 回	投稿論文の項目を検討する (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に目的、簡単なモデルと実証分析への道筋を考える。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 3 回	投稿論文の項目を検討する (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に簡単なモデルと先行研究の選択を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 4 回	投稿論文の項目を検討する (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。モデルの拡充と先行研究の survey を報告する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 5 回	投稿論文の項目を検討する (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証モデルの基本を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 6 回	投稿論文の項目を検討する (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証に必要なデータを検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 7 回	投稿論文の中間報告 I (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ概要をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 8 回	投稿論文の中間報告 I (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 9 回	投稿論文の中間報告 I (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。実証モデルを作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 10 回	投稿論文の中間報告 I (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。前回到示唆された内容に実証モデルを拡

		<p>張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第11回	投稿論文の中間報告Ⅰ (5)	<p>投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。2回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第12回	投稿論文の中間報告Ⅰ (6)	<p>投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。2回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第13回	投稿論文の中間報告Ⅰ (7)	<p>投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2時間 投稿論文の実証分析を検討する。2回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第14回	前期の総括(1)	<p>前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第15回	前期の総括(2)	<p>前期の総括を行う。 【事前学習】2時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第16回	投稿論文の中間報告Ⅱ (1)	<p>前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第17回	投稿論文の中間報告Ⅱ (2)	<p>前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第18回	投稿論文の中間報告Ⅱ (3)	<p>前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第19回	投稿論文の中間報告Ⅱ (4)	<p>前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。</p>
第20回	投稿論文の中間報告Ⅱ	<p>前期の報告の批評を踏まえ報告する。</p>

	(5)	【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第21回	投稿論文の中間報告Ⅱ (6)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第22回	投稿論文の中間報告Ⅱ (7)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第23回	投稿論文の中間報告Ⅱ (8)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第24回	投稿論文の最終報告 (1)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第25回	投稿論文の最終報告 (2)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第26回	投稿論文の最終報告 (3)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第27回	投稿論文の最終報告 (4)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第28回	投稿論文の最終報告 (5)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第29回	まとめ(1)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の最終報告を作成する。 【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第30回	まとめ(2)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2時間 投稿論文の最終報告を作成する。

		【事後学習】2時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
--	--	---------------------------------

授業形式
演習形式，毎回学生の報告の評価も行いフィードバックする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
様々な自習の到達度も評価に加味します。					

テキスト
授業時に紹介する。
参考文献
授業時に紹介する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL 2